

AO 法骨折治療 Wrist 英語版 Web 付録付

Jesse B. Jupiter, Douglas A. Campbell, Fiesky Nuñez・原著
田中 正・監訳
金谷文則・訳者代表

評者

齋藤知行

(横浜市立脳卒中・神経脊椎センター病院長)

A4 サイズの本書を手にとるとずっしりとした重みにまず驚かされる。本書を開くと、簡潔にまとめられた説明文、丁寧に描かれたイラスト、単純レントゲン写真やCT画像、術中写真が目飛び込んでくる。それらは整然と配列され、その数は非常に多く、本書の重みの理由に納得する。

本書の構成は第1部が手術進入法、第2部が症例の2部構成で、巻末に参考文献と骨折・脱臼分類が掲載されている。教科書を読んで覚えるという、これまでの体裁をとっていない。読み始めると、実際に治療に携わる外科医の視点や手術に対する思考過程に準拠して記述されていることに気付く。

手関節部は橈骨手根関節、遠位橈尺関節、遠位列と近位列を形成する手根骨からなる。それらの関節が緊密に協調・連動することにより、日常生活に最も重要な役割を果たす手を三次元空間に自由自在に配置することを可能にする。関節面の部分的な適合不良は必然的に関節症性変化を生じさせ、機能障害を引き起こす。したがって、手関節の骨折ではより厳格な解剖学的整復固定術が求められる。

解剖学的整復固定術には、高精細なCT画像などによる骨折型の正確な評価とともに、複雑な解剖学的形態を持ち、神経、血管、腱組織が密集する手関節では的確な手術進入法の選択が求められる。

A4判・536頁
2022年5月
定価：28,600円
(本体26,000円＋税)
ISBN978-4-260-04801-9
医学書院 刊



る。本書では、多くのページを外科的進入法に割り、全ての部位の骨折に対応している。正確な整復には展開がいかに重要かがわかる。工夫されたスクリューヘッド、プレートの形状、骨切り用の機器など精緻に考案された内固定材からは、開発者の意図が明確に伝わってくる。

本書の最も特徴的なことは、症例を通して学ぶ点である。手関節のほぼ全ての骨折に対して、初めに症例が提示され、病態と適応、術前に準備する固定材料、体位と肢位の取り方、外科的進入法、整復と固定法などの手術の要点、術後管理とリハビリテーションについて記述されている。最後の章では、変形治療骨折の矯正骨切り術や複雑な病態に対する対処法について言及されている。豊富なイラストと緻密に検討された動画を通して、手外科専門医以外でも手術の流れが想定でき、専門医にとっては手術の要点を再確認できる内容となっている。

本書は、世界的に著名な手外科医が執筆しており、彼らの長年の経験と知識を集約して、さまざまなレベルの外科医が的確な手術を行えるように著述した渾身の実践書である。

日常診療で比較的良好に遭遇する手関節部の骨折を治療する外科医にとって、まさに必携の書である。